

子育て支援団体で活動を通して考えたこと

活動先：親子の広場 あんだんて
クラス：末盛 慶 先生

1. 目標設定 ～サービスラーニングとして学生は何をすべきか考える

このサービスラーニングでは地域での問題、課題に対し行政サービス等では行き届いていない部分を担う NPO の活動に参加し地域福祉の担い手に実際に自分たち学生が入って NPO を理解する。また NPO で活動することで NPO の方と一緒に地域や今日の福祉の問題と向き合い、学生の視点から問題を見つけ考えていく。このサービスラーニングでは学生として何を求められているのかまた学生として何がフィードバックできるのか再確認し私たちグループの目標を掲げた。その時にキーワードとして考えたのが下記である。

①現代の小学生はどのような環境で生活しているのか

→普段、私たち学生は小学生を見かける事はあってもどのような生活環境で生活しているかは分からない。私たちの小学生時代とも変化があると考えた。そこで支援を考えるにあたって生活環境を理解することを考えた。

②家庭環境と地域環境

→過疎化や少子高齢化が進み地域環境にも変化がみられる。また家庭では共働き家庭、核家族家庭も増加している。この両者がどのような接点でかかわっているのか。この構造の中でどのようなニーズがあるのか把握する

③サービスラーニングの活動として子供たち、活動先に何ができるか

→サービスラーニングの活動で学生として何かを与えたい、残したいというものがあつた。そのためには何をすればよいのか。

これらを踏まえ事前訪問や学内事前打ち合わせで活動先の方と話す場を通し学生として何ができるか考えた。活動先の方からは「公園で子供たちが体を使って遊んでいるのを見かけない」「大人数でのあそびをやらない」などの様子をうかがった。そこで私たちは集団で「ハラハラ、ドキドキ、ワクワクを全力で伝える、感じる」を活動テーマに設定しその中で今日の小学生に対する地域でのニーズは何かを考えることを目標ねらいとし活動プログラムを作成した。

2. 活動の反省、自身の成長

1) 学校内の講義ではできない体験

学校の講義、教室では感じることをできない学びができた。目標設定、活動プログラムを考える段階で NPO に出向き今日の地域をとりまく問題、特に子育て問題について考えることができた。実際に子育て最中の親御さんに話を聞いたりと教室をでなければ得ることのできないものをたくさん得ることができた。

2) 計画通りにいかない難しさと私たちに求められているもの

上記のような目標や活動プログラムを計画したが実際活動をしていく中ですべてにおいて計画通りにいったものはなかったと思う。しかし、計画通りにすべてがうまくいくとは最初から思っていなかった。しかし、うまくいかなかったときに「なんとかなるだろう」とあまく見ていた。実際活動をしてみて、活動の主導権をすべて学生にさせていただいており学生がうごかなければ活動は進まない。そのなかで「なんとかなるだろう」は通用しなかった。

活動第1日目に「スライム作り」を計画しスライム作りに取り組んだがスライムを完成することはできなかった。子供たちはスライムに興味を持ち「見てみて!」と寄ってきて取り組んでくれた。「できない」とやめてしまう子はいなかった。それに対し子供たちの期待を裏切ってしまった事に活動先の方からお叱りをいただいた。計画の甘さを感じた。またひとつひとつの活動に対してメリハリがないともご指摘をいただいた。

そこで第2日目からはタイムスケジュールをしっかりと立て、活動をとにかくこなしていく。そのようなスタイルにした。しかし今度は活動が詰まりすぎて子供たちがそれぞれ個々にやりたいことがありバランスを取らなければならないと指摘された。

保育士の責任実習などとは違い、サービスマーケティングの活動として学生として子供たちとどう向き合っているのか、うまいバランスを見出すことができずじけそうになってしまった。NPOを理解し地域の問題点を見つけるといったところまで目が届かず、子供たちには何がおこせたのだろうかとすごく曖昧なまま活動を終えてしまった。

しかし、その後の活動先の方との懇談の中で今回のサービスマーケティングの活動に参加してくれた子供たちのアンケートを見せていただいたところ「来年も参加したい」などといってくれる声があがっていて安心した。自分の中では曖昧なまま終わっていたが、子供たちそれぞれに何かを残すことができ安心できた。

この活動を通し福祉の現場の一部、子育て支援という窓から自分自身、子育てのむずかしさ、集団の扱いなどを学び成長できたと感じた。

3. この活動を通して見えてきた地域活動

今回、活動させていただいた親子の広場あんだんてでは、NPO 法人格を所得せずに活動されている。NPO 法人格を取得すると行政の締め付けや法的拘束が強まり自由な活動ができない。「第2の実家」のように思ってもらえるようなコンセプトで運営していると伺っていた。自由にいつでもこられる場所。これが行政とはちがう地域に根付いた子育て支援団体になっていると感じた。